

2008年度 大学院法務研究科
法学既修者認定試験
民 法
(問 題)

以下の問1、問2、問3のうちから2問を選んで、それぞれ解答用紙の所定のページを用いて、解答しなさい。

問1

Aは、BからBが特別に加工した鉄材を買って、スチール製の家具の製造をしている。Aは、平成19年2月に、Bとの間でこの特別に加工した鉄材を500万円で買い受ける売買契約を締結した。鉄材の引渡日は7月1日になっていたが、家具の販売実績が予想外に悪くなったため、Aは7月1日を過ぎてもこの鉄材を受け取らない。そこで、Bは、しかたがないからこの鉄材を持ち帰って倉庫で保管しているが、それを知ったCがBに対してこの鉄材購入の希望を伝えてきている。

この場合について、次の(1)(2)の問いに答えなさい。

(1) この場合に生じうる法律問題を論じなさい。

(2) この鉄材を保管中に倉庫が焼失し、この鉄材が使い物にならなくなったとしたら、どのような法律問題が生ずるか。

問2

Aは、現在、甲地を敷地とする乙建物に居住している。この場合に関し、次の(1)および(2)について解答しなさい。なお、(1)の解答にあたっては、(2)におけるBおよびCについて考慮しないこと。

(1) Aが甲地および乙建物に対してどのような権利(甲地に対して「何々権」、乙建物に対して「何々権」)を有しているか、想定できる権利について、網羅的かつ体系的に掲げなさい。

(2) Aは、甲地および乙建物をBから購入し所有権を取得したところ、Cが甲地の一部を駐車場として使用し始めた。Aが、Cに対して、当該駐車について異議を述べたところ、Cは、自分はBより甲地を賃借したものであると主張している。しかし、Aは、甲地および乙建物の購入にあたりBからそのようなことは聞いていない。このような事情の下で、Cが真正な賃借人である場合とそうでない場合のそれぞれについて、Aが、Cに対して、どのような請求が可能であるか(または請求はできないか)を説明しなさい。

問3

X(抵当権者)とA(債務者・抵当権設定者)との間で、A所有の土地(更地・価値1億円)に対して、債権額1億円の抵当権設定契約が締結され、抵当権設定登記がなされている(順位1番)。その後、Aの債権者であり暴力団の組長であるYが、本件土地にプレハブの簡易な建物を建築し、事務所として所有している。Aは、この状態を黙認している。AがXに対する債務を不履行にした場合に、Xが抵当権に基づいてどのような権利行使ができるか、どのような権利行使をすればよいのか、理由を付して述べなさい。